

令和 2 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト (県 立 川 島 ひ ば り が 丘 特 別 支 援 学 校)

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。 ・保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり 2 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応により、臨時休業期間が長期化している。あらゆる状況を想定し、柔軟に対応できる学校運営が必要である。 ・肢体不自由教育に初めて携わる教員を多く迎える現状を踏まえ、教育観、児童生徒の観察眼、目標設定、計画立案及び指導方法について、これまで培った教育実践を継承する。 ・前年度から検討を加えてきた新学習指導要領への対応や「流れ図」の活用により、根拠を明確にしなが、教育課程の充実を図る。 ・タブレットやデジタル教材、視線入力装置等を教育活動全般において積極的に活用する必要がある。 ・今後の児童生徒数の変動に伴い、各教科指導担当者や分掌等組織の業務担当者の確保及び各業務内容の見直しを図る必要がある。 	○組織的に教育力を向上させる	<ol style="list-style-type: none"> ①【新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応及び授業再開時の正常化】感染拡大防止に向けた情報収集及び児童生徒や保護者、教職員への正確かつ適切な情報の提供と、感染への不安や心的ケアに配慮した学校経営を図り、教育活動再開時の早期正常化を実現する。 ②【教員の資質向上】教員は研究修養とOJTに励み、児童生徒の見方や教育観、指導の技能技術、児童生徒の健康と安全の保持向上、保護者との連携体制の保持向上に努める。また、社会的常識・規範とコミュニケーション等、若手教員に適時的確に指導し後進の育成を果たす。 ③【教育活動の充実】個別の指導計画立案に際して「流れ図」の活用を進めることにより、担任間の合意形成、共通行動を確実にするとともに、自立活動の指導計画の妥当性を高める。 ④【ICT活用】先進校の事例研究等を参考に、授業や自立活動、自助具等としてのICT機器の効果的な活用や環境整備のための予算措置に努める。 ⑤児童生徒数の変動に伴う学校組織の見直しを行う。 	<p>学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応が適切にされている。学校再開時の教育活動が円滑に行われている。 ②・教育目標等に基づいた教育活動を実践している。 ③・児童生徒の実態に合った計画・指導・評価が行われている。 ④・ICTを活用した授業等が積極的になされている。 ⑤学校全体、各学部、分掌等それぞれの組織で児童生徒数の変動に対応するための検討をおこなったか。 	<p>方策の評価指標として保護者アンケートの結果によれば①の1問目では89.0%、2問目も90.9%肯定的意見が得られ、感染予防に配慮しつつ学習活動を遂行できたといえる。②の1問目では99.0%の肯定的意見が得られた。「流れ図」を用いた指導の定着が伺える。2問目も98.0%肯定的意見があり方策どおり取り組んだ成果であるといえる。③1問目では肯定的意見が100%、2問目では99.0%を示し、本校の教育活動に対する高い評価が得られた。④では肯定的意見は69%を示した。環境整備が整い次第ICT活用を更に広げた。⑤教科指導に組織的に対応した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により、安全に学校教育を進めてきたが、引き続き感染予防に努める。 ・コロナ禍により、予定されていた全肢研埼玉大会の会場校としての役割がなくなったが、今後も更に新学習指導要領への対応と、ICTを積極的に活用した教育実践の充実を進める。 ・臨時休業中動画配信をおこなったが、多種多様な内容の工夫を検討していく必要がある。 ・次年度に一般学級の教科指導に対し全校で協力体制を整える必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内小中学校等の求めに応じた支援、就学相談等については、引き続き継続発展する必要がある。 ・学校関係者による進路先福祉施設の理解促進と連携強化の指摘を踏まえ、進路開拓を進める必要がある。 ・支援籍学習の推進をはじめ、共生社会の形成に向けて情報発信や交流体験等を拡充する。引き続き本校及び児童生徒に対する理解深化のため、地域に根差した学校として情報発信を続ける必要がある。 	○共生社会の形成に向けた取組を進める	<ol style="list-style-type: none"> ①【センター的機能の発揮】・近隣他校の求めに応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、行政機関とのネットワーク会議の年2回開催等、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図る。・市町の協力やハローワークと連携した進路開拓及び生徒の希望進路の実現を図る。・医療的ケアの児童生徒に対応できる生活介護施設の充実のため、市町との密な情報交換により連携を強化する。 ②【本校及び本校児童生徒に対する理解深化のための取組】・状況に応じ、介護等体験等の積極的な受け入れをおこなう。・HPや広報誌等を充実させ、保護者や地域の方々に対し本校児童生徒及び本校の教育活動に関する理解を深化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①・学校外からの要請に、適切に対応できたか。 ・関係諸機関に対して成果を聴取し、回答が肯定的だったか。 ②保護者アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ・交流教育は適切である。 ・支援籍学習は適切である。 ・配付物や配信により学校の様子がよく伝わってくる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①コロナ禍の影響下、昨年度に比較してコーディネートを中心とする教育相談は30件から40件に、巡回相談は260件から187件に推移した。学校公開等の機会を持つてなかったが、個別の教育相談の実施により適正な就学支援に取り組んだ。行政機関とのネットワーク会議、関係市町との連携にも多大な影響が生じた中、可能な限りの情報共有により卒業生全員の進路保障に向け取り組んだ。 ②交流教育、支援籍学習は感染予防の為直接交流はできなかったが、作品交換や動画視聴による交流を工夫した。HPの更新やマチコミメールによる配信に対し95.8%肯定的意見が得られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・三密を避けるため、外部との直接交流は極力行わない方針で、電話による連絡、最小限の面談で連携を進めてきた。現状が継続する可能性も視野に入れ、オンライン等による会議方法を定着させたい。 ・教育相談として近隣小学校より自立活動に関する指導を年間14回受け入れ実施した。今後さらに学校間で連携を深めていくことが今後の課題である。 ・交流教育、支援籍学習においてもICTを活用した交流も更に推進する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアは、保護者の理解協力を得ながら円滑に運営してきたが、さらに維持向上させる必要がある。 ・児童生徒個々の状況に応じた緊急対応マニュアル作成、対応訓練等を重ねているが、発生時に確実に再現し、被害を最小限にとどめる工夫努力をさらに進める必要がある。 ・川島町は輪中の里と言われるほど低地であり、台風19号の時は時間差で学校周辺に水が押し寄せた。より確実な防災となるよう防災マニュアルを改善する必要がある。 	○児童生徒が健康で安全に学習できる学習環境を整える	<ol style="list-style-type: none"> ①【安心安全の維持向上】・事故防止のこれまでのノウハウを踏まえ、正常性バイアスを撤廃した安心安全の維持向上を遂げる。・医療的ケアに関しては、児童生徒の保護者の付き添いなど、課題の改善に向けて取り組む。 ②【早期発見・早期対応の徹底】危機意識共有により経営課題を早期に発見し、発生時には事実の正確な把握、改善までの丁寧な対応を組織的かつ確実に実施する。 ③【災害対策】事故、災害等を想定し、あらゆる事実に迅速かつ的確に対応できるよう、防災マニュアルの見直しと情報発信等の工夫を図り、川島町との連携を強化する。 	<p>学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①・施設設備は安全である。 ・医療的ケアは適切である。 ②・健康管理について、学校は保護者、医療機関と連携している。 ③防災マニュアルを異常気象に対応できるよう改める。 ・HP、メール配信による情報は適切である。 ・保護者や外部の意見が十分反映されている。 	<p>方策の評価指標として保護者アンケートの結果によれば、①の1問目は94%の肯定的意見が得られ、2問目では、学校で医療的ケアを受けている方から100%の高い評価が得られた。感染症対策を講じ、かつ医療的ケア環境の整備に取り組み、慎重にケア実施を継続したことに対する高い評価と受け止める。②の1問目では92%肯定的意見が得られた。③では新年度から防災マニュアルを更新する。2問目のHPやメール配信による情報発信については95.0%の肯定的意見があった。全体的に各評価は高止まりとなっている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も安全に教育活動が行えるよう、校内で組織的に連携をとりながら協力を進めていく。 ・事故、災害等を想定し、有事に迅速かつ的確に対応できるよう防災マニュアルの見直しと防災訓練の工夫を更に進めていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・書面開催のため、送付いただいた資料を一読した。保護者アンケート記述式回答には、新型コロナウイルス感染症対策に関する意見が寄せられていたが、教員の丁寧な指導に対する感謝の言葉が多々見られたのが印象的である。コロナ禍の状況から派生する様々な課題に、引き続き柔軟に対応してほしい。 ・現状について詳細に分析し、具体的な方策の元に進められてきた様子がよく分かった。 ・ICTに関しては様々な対応すべき点が多いが、動画配信の実践は良い。 ・個別の指導計画案の「流れ図」は、サンプルを用いて具体的な説明の機会が欲しかった。 ・臨時休業中の動画配信はバラエティ豊かで保護者も満足できた。児童生徒と直接関わる機会のない中、代替方法に感謝したい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における直接交流の難しい中、パソコン、タブレットを活用したオンライン交流をとり入れてはどうか。 ・外部との交流について、可能な限り対面での交流を図っていたことが読み取れた。 ・教育相談のニーズは大変高まっており、直接面談以外にも電話等による相談案件が増加している。今後もセンター的な役割に更に期待したい。 ・地域との交流が実施できなかったことは最も残念に感じる。今後どのような地域との交流で、特別支援教育の理解促進を図るかが課題である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害対策として行政との連携を密に、防災マニュアルの更なる改善を望む。 ・学校の最も大切な部分は児童生徒の命、安心、安全である。マニュアルの徹底、教職員の行動・意識の向上、訓練等は定期的かつ即時行う必要がある。本校における保護者対応、医療機関との連携への評価の高さは、前述の内容が適切に実施されているからであるといえる。 	